

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取り組みについて

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の状況を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

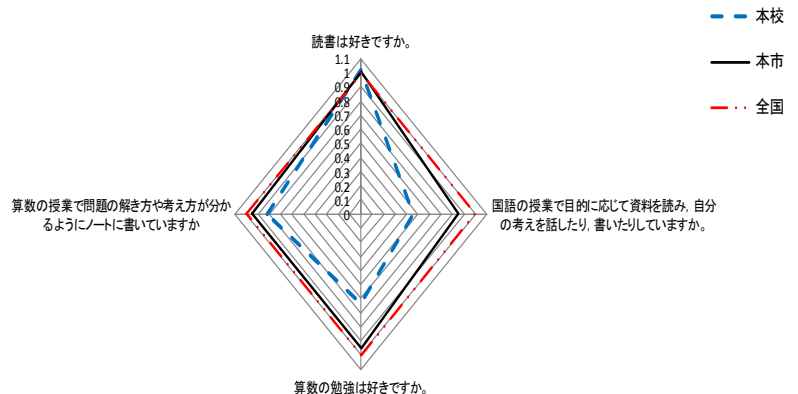
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語 A 主に「知識」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇していた。 新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに課題があり、日ごろから新聞のコラムに関心をもつ等の指導の充実を図る必要がある。
国語 B 主に「活用」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っており、記述式の問題に課題があり、根拠を示しながら自分の考えを書くことを習慣化する必要がある。 目的や意図に応じ、記事に見出しを付けることができるかどうかをみる問題に関して、新聞を書く目的や意図を明確にもつことができるように指導することが今後大切である。
算数 A 主に「知識」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っており、数量や図形についての技能、知識、理解問題は、正答率が低かった。 算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要がある。
算数 B 主に「活用」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っており、特に事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現する問題に対しては、無解答率が高かった。 筋道を立てて考えたり、振り返って考えたりすることを繰り返し行っていく必要がある。
理科	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回ってはいるが、自然事象についての知識・理解に関する問題は、正答率が高かった。 科学的な概念やデータを基に考察し、判断の根拠について明確にし、理由を説明する場の習慣化が必要である。

② 学校における学習状況に関する調査結果

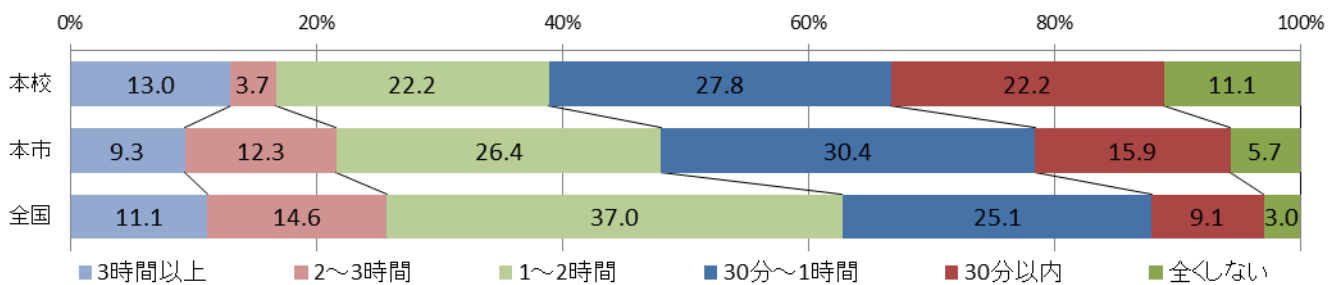
- 読書ボランティアの方々の読み聞かせや、図書館の環境整備などからも良い影響を受けていると考えられる。
- 文章を書くことに抵抗感を持っている児童が増加している。書くことに関しては、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を積極的に授業に取り入れたりする必要がある。
- 算数が好きまたは、まあまあ好きな児童が半数以下である。このことから基礎をしっかりと固めた上で、算数の楽しさを実感できるような取組をしていく必要がある。



2. 家庭生活習慣などに関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・ 1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全体の約4割と全国や市に比べ低い数値となっている。また、家庭学習の絶対量が少なく、全校で学習時間のめやすを示しているが、なかなか達成されていない。さらに家庭学習の具体的な取組を考えていく必要がある。
- ・ 自分で計画して学習している児童の割合も全国や市に比べかなり低いので、自分の苦手教科の克服や今すべきことは何かを自覚する場の設定が必要である。
- ・ 学校からの宿題は、ほとんどの児童がしているが、その日に学習したことや、過去に学習したものを復習している児童は、全国や市に比べ低い数値となっている。



学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）

② 生活習慣に関する調査結果と分析

- ・ 子どもが家で過ごす多くの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしていることが分かる。中でも4時間以上テレビやビデオを見る子どもが半数近くいる。夜遅くまで見ることで十分な睡眠時間が確保できていない。
- ・ 普段、1日あたりテレビゲームや携帯式のゲームを3時間以上している児童が4割以上いる。この結果が、早寝・早起き・朝ごはんにも影響していると考えられる。
- ・ 地域の行事への参加率は、全国では上昇傾向にあるが、本校では低い数値である。年間を通して、地域行事への積極的な参加をPTA理事会や学校便り等で呼びかけて、学校、家庭、地域の連携をとる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校・学年・学級の取組）

- ・ 学力向上に関する職員の意見交換の場を定期的実施する。
- ・ 学力向上プランの共通理解と、学年、学級での取組内容の確認
- ・ 学力向上のための特設時間の実施（全校一斉チャレンジタイム毎朝8：35～8：50）
- ・ 小中連携サポーターの計画的な配置、活動補助、プリントの整備
- ・ 全国学力学習状況テストやCRTへ向けての過去問題、アシストシート、活用を高めるワークを活用する。
- ・ 単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付ける。
- ・ 「書く」ことを習慣化する。（学習のめあてとまとめ、振り返りを素早く書くことができるようにする。）
- ・ 国語や算数に限らず、理科や社会科その他の教科でも自分の考えを理由を含めて書き、周りに伝えるという活動を積極的に取り入れる。

② 家庭生活習慣などに対する取組

- ・ 自主学習ノートを活用し、自分から苦手箇所の復習や好きな学習に取り組むことができるように、声かけをお願いします。
- ・ 家庭学習時間の設定（低学年30分、中学年45分、高学年60分をお願いします。）
- ・ 「塔野小家庭学習の手引き」を再度配布しますので、ご覧になりご協力をお願いします。
- ・ 長期休業日の宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を出しますのでご家庭でも活用してください。